

ようざん通信

発行日:平成21年7月1日

スーパーデイようざん飯塚、ケアサポートセンターようざん貝沢、スーパーデイようざん貝沢家族会のお知らせ

ご家族の介護の悩みをみんなで共有し、情報を交換しあう事を目的に家族会を行います。また、認知症とその症状に関する勉強会と認知症ケアに関しての寸劇も併せて行います。参加して楽しい家族会にいたしますのでご参加をお待ちしております。

日時:平成21年7月18日(土曜日)13:30から15:30

場所:高崎市高関町集会場



楽しくて分かり易い劇にしようと、

高崎市高関町集会場



高関町集会所は、正泉寺の敷地内にあります。



共感するということ

はじめに

「認知症」という言葉を日常の中で、皆さんはどのくらい耳にし、どのくらい知っていますか？

認知症とは病気です。日本では5人に1人が65歳以上の高齢者であり、その中の13~14



人に1人が認知症という割合です。現在、日本全国で160~170万人ともいわれ、団塊の世代が高齢者になりきってしまう2015年にはおよそ280万人にも達することが予想されています。しかし、認知症に対する認識は十分ではありません。ある20歳以上の一般住民を対象として全国で行われた認知症に対する意識調査では、認知症をれっきとした病気であると認識していた割合はおよそ2人に1人でした。65歳以上では最も多い認知症の原因であるアルツハイマー型認知症(ATD)について症状まで知っていた人は2割に満たない状況です。

認知症ケアは最近の話題ではありません。2000年に介護保険が開始され、グループホームに代表される新しいケアの形が急成長するに伴って認知症ケアに注目が集まり始めたといっても良いでしょう。認知

症高齢者ケアを普遍化していくうえで最も重要な点は、認知症ケアの方法をいかに標準化できるかにかかっています。実証的な数字はありませんが、保健・医療・福祉関係者の間でさえ、認知症についての理解が必ずしも十分ではなかったために地域での発見が手遅れになってしまったという例は少なくありません。現在、認知症の人が利用されている施設は数多くあります。しかし、「認知症」ということから真っ向から向き合い、考え、ケア(実践)している施設は決して多くはないかもしれません。

認知症ケアとは、いかに認知症を理解し、認知症の人たちに「共感」できるかにかかっているといっても過言ではなく、そのためには専門職としてのスキルが求められることとなります。認知症の人たちがそれまでの日常生活を継続するためのサポートが必要になる段階では、何らかの意思表示の障害があるといってもいい、彼らが直接言葉で訴えることや行動がそのまま彼らの生活上のニーズを表していないことも多いでしょう。であるからこそ、彼らのニーズを見極めサポートしていくために多種職がそれぞれの立場に立ってそれぞれの役割を果たす「チームケア」の意義と必要性があると思います。また、意思表示の障害に加えて、判断力が低下している認知症の人たちの人権に対する配慮も認知症ケアで特に求められる点であります。これらの点が認知症ケアの最大

(次ページへ)

の特徴であり、スーパーデイの実践(強み)でもあります。私たちスーパーデイ(認知症対応型通所介護)ようざんは認知症高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて、今後も専門職としてのケア技術(共感)を役立てていきたいと思えます。

私は認知症ケアを実践する中ですべての核となるのが“共感”だと確信しています。認知症ケア(共感)を根底から理解するには時間がかかります。今回は、自分の思いや、苦悩を適切に自分の言葉で表現できなくなる「認知症」という病気に悩む人たちが体験している世界を私たちはどの程度理解しているのでしょうか?ある日のAさんの朝の情景を基に考えながら、私たちが普段何気なく実践している“共感”の一部を説明できたらと思えます。

【Aさんの朝】

Aさんには認知症の症状がある。半年前に特別養護老人ホームに入所したが、なかなか施設の生活に馴染まない。

ある日の朝、Aさんは居室から出て周囲をキョロキョロと見回しながら廊下をゆっくりと歩いている。スタッフが「おはようAさん」と挨拶すると、ちょっとびっぴりした様子で「おはようございます」と挨拶を返してくる。「朝ご飯食べましょう」と言うと、「あの一、実はお金がないんです」という返事。「お金は息子さんのBさんからもらっているから大丈夫ですよ」と伝えると、不思議そうな顔で「Bが払ったんですか、そうですか」と答えてくる。食堂に案内して食事のトレイを置くと、「あの一、実はお金がないんですけど・・・」と重ねて言うために、「だからお金は息子さんのBさんから頂いてますから、どうぞ召し上がって下さい」と説明する。食事を早々に終えたAさんは落ち着かない様子で再び歩き始める。先週は施設から出て行ってしまってスタッフが給出で探したために、徘徊が始まった時はスタッフが1人ついていくことにしている。今朝も食事を終えたAさんが歩き始めたためにスタッフが1人ついていくと、Aさんは時々スタッフのほうを振り向きながら歩き始めた。このような状況は一般的に施設などで日常的に起こっている出来事です。介護スタッフからみると、なかなか施設に馴染まないAさんが、今日も朝から落ち着かず徘徊をしていると思われることでしょうか。また、食事の度に「お金がない」というAさんに対して、どうして毎日同じことを言うのだろうと、いささかうんざりしながら「息子のBさんからお金はもらっているから」という返事を繰り返していることになっています。しかし、Aさんの視点から見たとすれば、どのようになるかを考えてみたいと思えます。

【Aさんの視点】

朝目が覚めると、どこか見慣れない部屋にいる。「ここはどこなのだろう。自分はなぜここにいるのだろう。どうやってここに来たのか」と何も覚えていない自分に気づく。不安になったので、廊下に出てみる。両側に同じような部屋が並んでいて高齢者がベッドに寝ている姿が目立つ。同じ服を着た若い人たちが忙しそうに動き回っている。「ここは病院なのか」と思う。「おはようAさん」と制服を着た若い人に声をかけられた。とっさに「おはようございます」と答えてみた。「あの若い人はなぜ自分の名前を知っているのか。ここはどこなのか」と聞いてみようと思ったが、「朝ご飯食べましょう」といきなり言ってきた。お腹が空いているよ

うな気がするが、ご飯を食べるのにお金を持っていないことに気づいた。思い切って「あの一実はお金がないんです」というと若い人は、「お金は息子さんのBさんからもらっているから大丈夫ですよ」と言う。「息子のBはまだ中学生のはずなのに、お金を払ったというのか。これは何かおかしいぞ」と思うが、とりあえず食事に行くことにした。食堂のような居間のようなところへ案内されると、7~8人のお年寄りがテーブルについて食事をしていた。「ここは何でお年寄りばかりなのだろう」と思っていると、目の前に食事ののったお盆が置かれた。「これを自分が食べるのか」と思うが、お金を持っていないことに気づき、若い人に「あの一実はお金がないんですけど・・・」と思い切って言ってみた。すると若い人は何かイライラした様子で「だからお金は息子さんのBさんから頂いてますから、どうぞ召し上がって下さい」と言われた。少し怖くなってとりあえず食事をとることにした、「これを食べたなら家に帰らなきゃ。職場にも連絡しなくては・・・」と思い、歩いてみる。すると若い人がニコニコしながら自分の後をついてくる。「何か薄気味悪い。どうして自分の後をついてくるのだろう」

Aさんの内的世界では、このような状況になっているとも考えられます。Aさんには基本的な認知機能障害があり、現実世界とは違う世界で生活をしていると思われそうですが、私たちはAさんの内的世界からものを見ているわけではなく、現実世界からだけAさんを見てはいないのでしょうか?

認知症の初期の人で自分の不安な気持ちや苛立ち、苦悩などを私たちに訴えてくる人たちがいます。しかし、認知症は進行性の疾患であり、この人たちも少しずつ自分の気持ちや思いなどを適切に伝えることができなくなっていく。したがって私たちは、認知症の人の気持ちや苦悩を断片的な会話や行動から推測していかななくてはなりません。ここで記載する認知症の人の心理的特徴は、これらの経験から得られたものが多く、必ずしも正確ではないかもしれませんが、しかし、もし自分がそのような立場にあった場合を考えることによってすこしでも認知症の人自身の世界に近づくことができるのではないのでしょうか。

今回、紹介したAさんの行動は、現実世界から見れば「徘徊」であり、私たちが行動障害と呼んできた行動です。しかし、Aさんの内的世界から「歩く」という行動を見ると、これは障害ではなく、目的に添った行動なのです。つまり、内的世界から捉えると、行動“障害”という言葉は、実は不適切な言葉になると言えます。Aさんの世界を共感的に理解することができれば、おのずとケアの姿は見えてくると思えます。

スーパーデイようざん飯塚(石原)



小規模多機能型居宅介護施設

ケアサポートセンターようざん貝沢

6/4(晴れのち曇り)日中

笑顔....

笑顔って良いですよ〜！笑顔って。利用者様が見せる笑顔が作った笑顔じゃないことを何時も祈っています。信頼関係があるからこそ、そこに真の笑顔があるのではと考えています。だからいっぱい笑って下さい。笑うことで治癒力が増していきますし、笑うことで若さも維持できるのではとも思っていますし、また笑う角には福来たるとも言いますね。事実これはというお話(糖尿病患者について)を一つしますと、皆様もご存じかとは思いますが、毎日の笑いが糖尿病患者の血中コレステロール値の改善を助け、心臓発作のリスクの低減にもつながるとの知見が、今年の4月に米ニューオーリンズで開かれた米国生理学会 (APS) 年次集会で報告されたのです。

また、笑いが食後血糖値の上昇を抑制するという知見もあるので、話が長くなってしまいますので、もっと知りたい方はこちらのサイトまでアクセスしてみてくださいね。

www.dm-net.co.jp/calendar/2009/05/008274.php

だから皆様もいっぱい笑って下さい、そして笑いを一緒に生み出してみませんか。

6/14(曇りのち晴れ)pm14:30

今日は、ようざん施設内での出来事で〜あります。なんと、今日のおや

つはホットケーキでございました〜！職員の皆さんと利用者様の皆さんとで焼きました、ホットケーキを.....さすがは年の功ですな、手馴れたものでございます。感覚なんて全然鈍っちゃ〜いませぬよ〜！焼けたかどうか食べてみよっ！ほらっ、焼けたかどうか食べてみよっ！と言いながら食べたかどうかまでは分かりませんが、利用者様も一生懸命焼いておりました。あっちを裏返しては食べ、こっちを裏返しては食べ、ひっくり返すものが無くなるまで皆さんと一緒に楽しい時間を過ごさせて頂きました。さあ！明日は何をひっくり返しましょうか！時間の概念でも...んっ？

6/15(曇りのち雨)pm13:30

職員&利用者様の皆さん揃って行って来ました〜！藤岡市にある、庚申山総合公園(入園自由)へ。標高189mの庚申山一帯に広がる自然公園なのです。緑豊かな園内には、池や市内を一望できる展望台などがあり、他にも市民体育館、ミニ動物園、ふじふれあい館などもあります。さて、駐車場から目的地に到着するまでの坂道のキツイことキツイこと.....ささっ、この辺で休めますか〜？と職員さん、利用者様も疲れたことでしょうとお茶をどうぞと差し出すとゴクリゴクリと美味しそうに飲んでるじゃ〜ないですか！おやつも出てきてコンニチハ〜！職員さん一緒に話しましょうよと言ってるうちにお帰りの時間となってしまいました。それからだんだん天候が怪しくなってきたかと思っていると.....あらっ、雨です。この日は職員の皆さんも利用者様の皆さんも良い足の運動になりました。(鈴木)



居宅介護支援事業所ようざん ~認知症高齢者の在宅介護について~

現在、自分の担当している方の8~9割の方が在宅での介護と介護サービスを併用しながらご自宅で生活しています。訪問する中で、認知症を受容し工夫しながら介護出来ているご家庭と、認知症の理解に悩んでいるご家庭が見受けられます。認知症を理解できている方の介護は、家族ならではのオリジナルの工夫が取り入れられていて、とても勉強になります。一方、認知症を理解できていない場合は、お互いの意見がぶつかり、関係が悪化し、それが認知症の進行につながり、介護負担も増えたりと悪循環になってしまいます。ではどうしたらいいか...?いきなり認知症を受け入れるという事は難しいことです。まずは、認知症を受け入れるという気持ちを持つだけでも構いません。それだけでも大きな前進になります。時間はかかっても本人を少しずつ理解

する事で、よりよい介護へとつながり、介護の負担も自然と減ってくると思います。これをヒントにして頂き在宅介護の負担が少しでも軽減すれば幸いです。更に、介護保険サービスを上手く利用し、自分の時間を作ることも大切です。サービスを、本人の為だけでなく、自分の為に検討してみる事も在宅介護を続けていく上で大切な事です。また、これからの季節、気温がグングンと上昇し脱水等の心配があります。デイサービス等介護の現場では、利用者様はもちろん介護にあたる職員も普段以上に水分を摂るよう心がけています。ご本人様はもちろんですが、介護者の皆様もご自身の体調管理に気をつけて頂ければと思います。(小坂橋)

小規模多機能型居宅介護施設

ケアサポートセンターようざん並榎

雨の日が多くなり、ドライブや散歩に出かけることが少なくなってくる季節ですが、ケアサポートセンターようざん並榎の利用者の皆様は、毎日元気いっぱい過ごされています。

ラジオ体操、リハビリ体操、タオル体操など元気なかけ声と共にして頂くと「体が軽くなったよ」「すっきりするね」と好評で、「次は何する！」と笑顔で言われると昔の懐かしい歌や、童謡などをみんなで唄ったり拍手ありとでとても楽しい午前中のひとときです。

午後は、折り紙であじさいや朝顔、かえるやカブトムシなどを作り、ホールに展示しました。展示後は自分の作品を持ち帰って頂いていま

すが、「大切にとってあるよ」「今年のまだ飾っているよ」と言って下さると、私達職員も嬉しくなり、次はどんな作品が出来るだろうかと楽しみにしています。

今はペットボトルを利用して風鈴と、梅干し人形を製作中です。個性豊かな作品が出来るのでは・・・？と期待しています。

利用者様と一緒に作品を作ってみて物作りの楽しさを改めて感じました。これからもご家族の皆様と協力して安全で楽しく毎日笑顔で過ごして頂ける様職員一同で努力していきたいと思っています。(松浦)



認知症対応型通所介護

スーパーデイようざん

夏野菜が実る季節になってきました。6月、梅雨のうとうしい季節ですが、スーパーデイようざんをご利用の皆様、お元気に通所されています。この時期になりますと、朝・夕はすぐ前の畑で野菜の収穫を楽しまれています。5月に植えたきゅうりやナスはもう大きくなって、昨年同様に糠漬けにしてお茶うけや昼食の時に召し上がって頂いています。「この味、美味しいねエー。」と皆様にとっても好評です。ミニトマト、インゲン、かぼちゃ、さつまいもなどなど次々収穫できるのを楽しみに日々手入れをしています。

恒例となっている季節のお花見は、5月のバラ、藤の花に続き、6月は花菖蒲でした。梅雨の晴れ間に、浜川運動公園で花菖蒲やアジサイの花が利用者の方々を迎えてくださいました。このようにドライブに出かけることも多いスーパーデイですが、麦わら帽子をかぶり散歩にもよく出かけています。その日の体調にもよりますが、ようざんの建物の周辺を歩くコースや、鳥川の堤防、時には遠く観音様を眺めながら並榎のテニス

コートまでの散歩をする方もいらっしゃいます。木陰にゴザを敷き、お茶とおやつで一休みします。「歩いた後のアイスキャンデーは格別ね」と一息いれ、帰りは迎えの自動車などで、一人ひとりの体調を配慮し無理なく楽しんで頂いています。

又、先日は夏に先駆け外にテーブルと椅子を出して桶ソーメンを楽しみました。朝からつけあわせのポテトサラダのりんごを切ってもらったり、マヨネーズを入れて合わせてもらったり、一緒に手作りも楽しみました。昼には観音様を眺めながら心地よいそよ風の中皆で桶からソーメンを取り、「これは美味しい、いくらでも食べられる」と食欲旺盛でした。

「ここに来て皆とおしゃべりして笑うのが一番」と、来所を楽しみにして下さる利用者の方々の声を大切にこれからも季節を感じながら、まわりの方々と共に過ごす時間を楽しんでいただけたらと思っています。(栢島)



小規模多機能型居宅介護施設

ケアサポートセンターようざん栗崎

早いもので7月に入り、1年の半分が過ぎてしまいました。

梅雨真っ只中で外出する機会が少ない中、当苑では梅雨の時期の代名詞でもある紫陽花を見に、玉村町まで足を延ばしました。街なかに流れている川の端にズラッと並び咲いている姿は優雅という言葉がピッタリ当てはまります。その日は日が照りつけていましたが、涼風があり心地よく、利用者様も綺麗なものを見ることにより心も穏やかになり、とても喜んで頂きました。6月14日には利用者様・スタッフが協力して、うどん作りを行いました。一心不乱にこねる方、手よりも口で貢献される方…、中でも普段のレクリエーションには参加されない方が、まるで職人のような手つきでこねているのには驚くばかりでした。昔とった杵塚で

しょうか、頭で考えているというよりは体に染みついているような手つきでした。おやつ時間に召し上がって頂いたのですが、昼食を摂ってそれほど時間が経っていないにもかかわらず、何杯もおかわりをされる方もおり、自分達で作った“うどん”に満足し、美味しく召し上がって頂きました。健康福祉大学の吹奏学部による演奏のイベントもありました、普段は目にしない楽器と20人程の若者に囲まれて笑顔が絶えず、とても喜んでおられ、最後には演奏に合わせて元気良く歌われていらっしゃいました。利用者様は、その日その日・その時その時で表情が変化します。その変化にいち早く気づき、利用者様が何を望んでいるか、何に困っているか等をキャッチし、すぐに対応できるケアをスタッフ一同で目指していきます。(石川)



認知症対応型通所介護

スーパーデイようざん栗崎

木々の緑も濃い中、太陽の眩しさを感じる季節が近づいていますが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

“スーパーデイようざん栗崎”も、おかげさまでオープンしてから1年2ヶ月が経ちました。これも地域の方々をはじめとする多くの方々の温かいご支援の賜物と実感しております。

オープン以来多くの利用者様、又はそのご家族様、居宅支援事業所のケアマネジャー様とお付き合いさせて頂きました。ご利用された利用者様人数は36名(平均要介護度2.4)いらっしゃいました。しかし、ご家庭のご都合や、ご本人様の体調の変化などにより15名(ユニット全体比41.6%、平均要介護度2.8)の方がサービスの転換をされています。その内、ようざん内サービスの転換(小規模多機能型居宅介護施設、グループホーム)をされた方は8名(サービス転換者対比53.3%、平均要介護度3.0)いらっしゃいました。

このように、初めて福祉サービスをご利用される方から、多人数で過ごされるのが苦手な方など様々な方々と小さなユニットの中、少人数で多くのイベントを明るく楽しく過ごし、じっくりとお付き合いさせて頂くことができました。そして、それは次の段階へのパイプ役としても役立って頂けているのではないかと考えています。

ご家族様からも、お礼のお言葉やお褒めのお言葉を数多く頂き、スタッフ一同“やりがい”の中でサービス提供させて頂くことができています。私達スタッフとしては、これほど嬉しいことはありません。

これからも皆様のご期待ご要望に応えられるよう、スタッフ一同努力を惜しまず邁進して参ります。今後とも“スーパーデイようざん栗崎”をどうぞ宜しくお願い致します。

(大島)



認知症対応型通所介護

スーパーデイようざん飯塚

だんだんと蒸し暑い日も増えてきて、夏が近づいているのを実感しています。

スーパーデイ飯塚では、6月7日に流しそうめん大会を行い11、12日には菖蒲見学へ行き、皆様その季節でしか味わうことが出来ない雰囲気の中楽しまれたようです。流しそうめん大会は去年に引き続き、2回目で利用者様も職員も一緒になり、涼しげに流れていくそうめんを追いかけました。菖蒲見学では浜川公園に行き、濃い紫や薄い紫、黄色など色とりどりに咲く満開の菖蒲をゆっくりと見て歩きました。

最近ある利用者様は、このような行事に参加したり、外出をした後、メモに自分の感想を書き持って来て頂いています。文の最初は、その時に自分が体験した事が書かれていますが、最後にはいつも“楽しいひと時でした”という言葉で締めくくられています。このメモは、私にとっても励みになり、スーパーデイようざん飯塚の宝物です。認知症という病気の為、記憶には残らなくても、その一瞬一瞬で感じた“楽しさ”は心の中で残っていくと思います。そんな心から“楽しい”と思える瞬間を利用者様と共に過ごし、少しでも多く作っていけるよう、これからも努力していきたいと思います。(植原)



認知症対応型通所介護

スーパーデイようざん貝沢



ようざん貝沢がオープンしてお陰様で2ヶ月となりました。スーパーデイようざん貝沢では、6月より新たにスタッフも増え、更に利用者様へのきめ細やかなサービスの充実を図れる様一致団結をして、これからもご支援させて頂きたく存じます。はじめの頃は、新しい環境とそれぞれの方々の面識が初めてということもあり、利用者様が緊張や不安で戸惑っていらっしやるのを感じました。し

かしこの2ヶ月の間に一緒に外出をしたり、レクリエーションをしたりしながら利用者様同士の交流を深めて頂き、今では毎日楽しく過ごして頂いております。スーパーデイようざん貝沢での出会いが、生活に良い変化をもたらして頂けるようこれかも働きかけていきたいと考えております。今月の外出イベントは玉村の北部公園やららん藤岡などに出掛けました。来月も利用者の方々と楽しめる外出先を見つけて出掛けたいと考えています。また、室内でのイベントではフラダンスやギター演奏、シャンソンやコーラスの催しがありました。その他にも、誕生日会や父の日のイベントを実施して、利用者の皆様方には楽しんで頂けたかと思えます。また毎日、日課として運動と気分転換を兼ねて、最寄りの公園や神社まで歩いてくつろぎに行っています。下肢筋力に衰えのある利用者方は車椅子での散策で、天気の良い日には外気浴を楽しんで頂いています。ドライブも良いですが、散歩を通じて自分達の足で歩くことの喜びと素晴らしさを改めて実感する機会にもなるのではと思っています。(山崎)



通所介護

デイサービスようざん並榎



季節も梅雨に入り、じめじめとした日が続きますが、皆様いかにお過ごしでしょうか。つい気持ちもどんよりとしてしまいそんな今日この頃ですが、いつも賑やかなデイサービスの今月は、この時期

ならではの菖蒲の花を見て浜川公園に出かけました。利用者様の普段の行いが良いからでしょうか、この一週間は天候にも恵まれ、清楚に水辺に咲く色とりどりの菖蒲の花を堪能しました。初めて来たと言う利用者様もいて、出かけて良かったとつくづく思えた一週間でした。デイサービス並榎は男性利用者様の多いデイサービスです。父の日に向けて、お好み焼き作りをしました。男子厨房に入らずの世代の方々にもエプロンを付けていただき、葱を刻んだり、材料を混ぜたりと活躍していただきました。もちろん美味しかったです。また、お花紙でこよりを作り、馴染みの深い白衣観音の

飾り作りをしました。紙をよっては貼り付けるという、とても根気のいる地道な作業でしたが、だんだんと利用者様も職員もこよりを作るのが上手になり、出来上がったときの達成感と安堵はひとしおでした。観音様が皆様を守ってください、ご利益がありますように…。来月は七夕さまで。利用者様に楽しんでいただけるよう、職員一同、明るく元気に美しく？頑張ります。(菅沼)



認知症対応型共同生活介護

グループホームようざん

梅雨に入り、天候が定まらない日が続きますが皆様いかにお過ごしでしょうか。グループホームの皆様は元気で過ごされています。6月2日、久しぶりの快晴、利用者様の体調も良好なため前橋敷島公園のバラ園の見学を計画しました。全員参加で車3台に分譲し「さあ出発！」途中国道を走っていると「車が多いですね」「大きい車ばかり」と皆様車の多さにビックリされていました。バラ園に着くと、大勢の観光客で賑わっていて車椅子を2台お借りして記念撮影をしながらゆっくり1周しました。色々な花を見て皆様楽しまれた様です、園内を遊ぶ子供たちの姿

を見つけては「可愛いねえ」「どこから来たの」など、話したりして楽しいひとときを過ごせました。帰りにカップ寿司でお寿司やスイカデザート等召上がり、いつもと違った昼食に満足されていました。今後も月1回は、外食を計画し、利用者様に喜んでいただけるよう企画していきたいと思えます。また、日課の散歩では上並榎のテニスコートまで行き、麦茶とおやつで一休みします。近くで遊んでいたお子様と写真を撮ったり、お話ししたり笑顔と歓声の中普段見ることの出来ない表情も見られました。(白石)



ホームページのお知らせ

当施設の案内やレクリエーション活動の状況を定期的に更新しお知らせしております。また、施設のブログや施設長のブログも公開しておりますのでご覧下さい。ブログは携帯電話でもご覧頂けます。

ようざんホームページ

<http://youzan.jp> (PCのみ)

ケアサポートセンターようざん

ホームページではようざん通信のバックナンバーをダウンロードできます。

ようざんブログ

<http://youzan.gunmablog.net/>



施設長ブログ

<http://youzan2.gunmablog.net/>



2009年 7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2 県庁外出(飯塚) 南京玉すだれ (上並榎)	3 フルート演奏 (上並榎)	4
5	6 七夕イベント (飯塚)	7 理美容日 (上並榎、栗崎) 七夕イベント (飯塚)	8 理美容日(貝沢)	9	10 マジックショー (栗崎) ギター演奏 (上並榎)	11
12	13 ふれあいバラエ ティー(貝沢) 流しそうめん (飯塚)	14 なかよしクラブ手品 (上並榎) むつみ会(栗崎) ふれあいバラエ ティー(飯塚)	15 ギター演奏 (栗崎) 理美容日(飯塚)	16 南京玉すだれ (栗崎) 理美容日(飯塚)	17 さわやか会ハーモ ニカ(上並榎) ふれあいバラエ ティー(栗崎)	18 家族会 (飯塚、貝沢)
19 	20 フラダンス (栗崎) 誕生日会外出 (飯塚)	21	22 理美容日 (上並榎、栗崎) お茶会(飯塚)	23 理美容日(貝沢)	24 ギター演奏 (貝沢) フルーツバイキン グ(飯塚)	25
26	27	28 エレクoonイベ ント(上並榎) むつみ会(飯塚)	29 大正琴(貝沢) フルーツバイキン グ(飯塚)	30	31	

イベントの追加や予定の変更されることがあります。最新の情報はホームページの“ようざんカレンダー”をご確認ください。

主権在客

(株) プランドウ